

あなたに処方されたお薬「ビプレッソ®徐放錠」は「双極性障害での気分の落ち込み」を改善するお薬です。

## ビプレッソ®徐放錠を服用されるときは、 次のことにご注意ください。

このお薬は毎日寝る前に、  
食事から2時間以上あけて服用してください。



毎日服用することで効果があらわれます。

このお薬は気分がすぐれないときだけ服用するお薬ではありません。  
続けて服用することで、ゆううつな気分を和らげる効果があらわれます。  
効果があらわれるまでの期間には個人差があるので、医師の指示に従い、  
きちんと服用しましょう。

飲み忘れに気がついたときは、医師または薬剤師にご相談ください。  
2回分を一度に飲まないようにしてください。



このお薬は体の中で徐々に溶けていくように  
作られています。  
割ったり、噛み砕いたり、すりつぶしたりせずに  
そのまま水で服用してください。

誤って多く飲んでしまったときは、医師または薬剤師に  
ご相談ください。

ご自分の判断でお薬をやめたり、量を変えたりしないでください。

## 服用中とくに注意していただきたい点

ご家族に糖尿病の方がいる患者さん、糖尿病になるリスク（血糖値が高い、肥満傾向など）  
がある患者さんは、とくにご注意ください。

**1** このお薬を服用することにより、**血糖値の上昇**や**体重増加**がみられることがあり  
ます。血糖値の変化をみるため、服用されている間は定期的に血糖値の測定を行う  
場合があります。主治医にご相談ください。

**2** 服用中に、**激しいのどの渇き**や**おしっこ**の量が多くなる  
などの症状があらわれることがあります。  
このような症状に気づいたときは、  
すぐに医師または薬剤師にご連絡  
ください。

水、お茶、清涼飲料水  
などをたくさん飲む



**3** このお薬は、**眠気**や**立ちくらみ**、**めまい**などがあらわれることがあります。自動車の  
運転など**危険を伴う機械の操作は行わないでください**。

### ご家族の みなさんへ

- 患者さんが、急に気分が高ぶったり、興奮したり、怒りっぽく不機嫌になり、攻撃的になった  
ときには、医師にご相談ください。
- 双極性障害では、うつ状態や躁状態が混ざってあらわれたとき（混合状態）、躁状態か  
らうつ状態に転じたときに自殺の危険性が高くなります。患者さんの状態をよく観察し、  
下記のようなサインがみられたらすぐに受診をすすめてください。

「死にたい」と  
訴える

身の回りのものを  
整理する

友人、知人に  
別れを告げる

など

その他にも何か気になる症状や、わからないことがある場合は、医師または薬剤師にご相談ください。

# ビプレッソ®徐放錠は「双極性障害での気分の落ち込み」に用いられるお薬です。

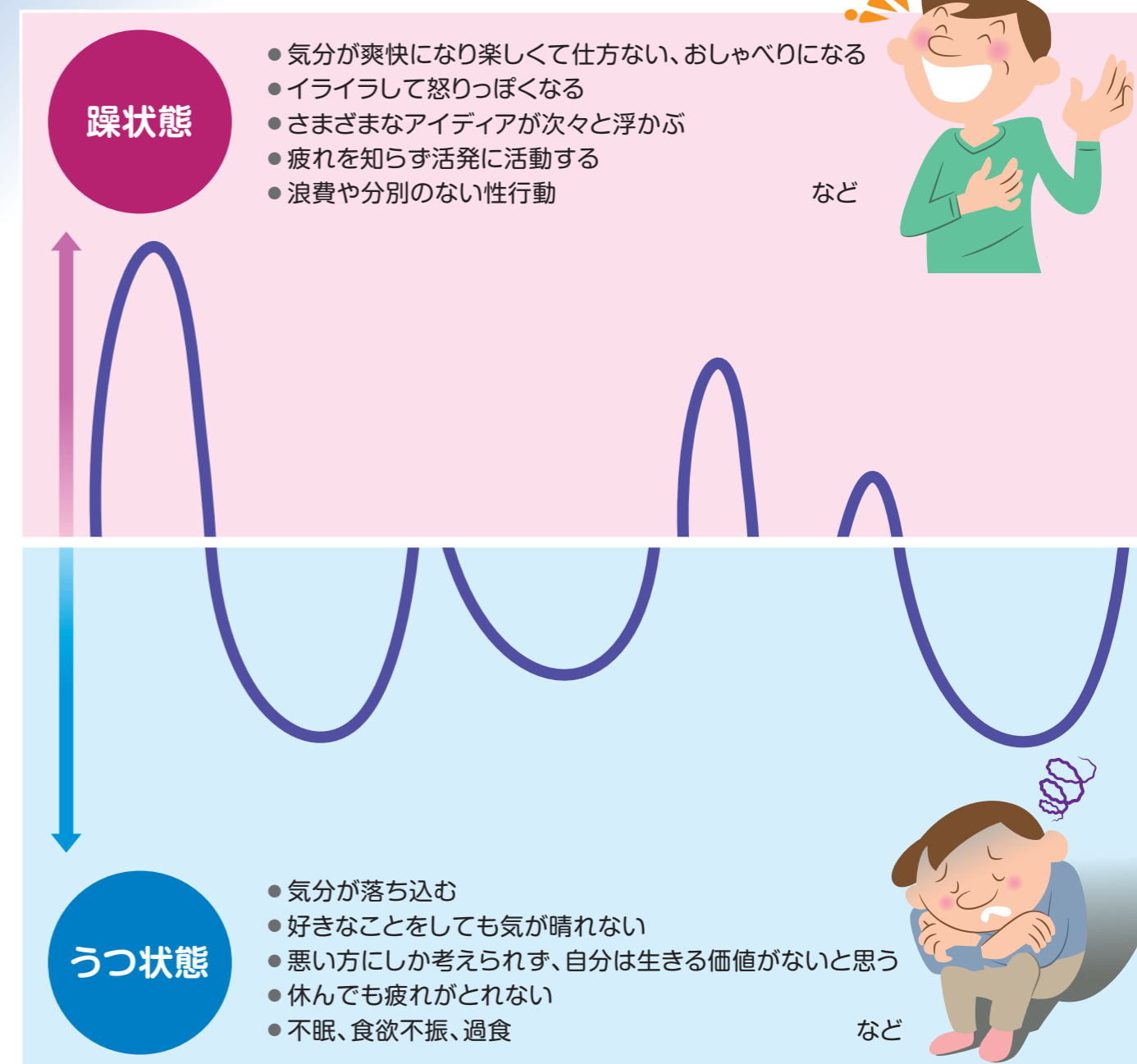
## ビプレッソ®徐放錠とクエチアピン「アメル」の相違点

販売名	ビプレッソ®徐放錠	クエチアピン「アメル」
一般名	クエチアピンフマル酸塩	
剤形	徐放性製剤	普通錠・細粒
効能・効果	双極性障害におけるうつ症状の改善	統合失調症
用法・用量	<p>通常、成人にはクエチアピンとして1回50mgより投与を開始し、2日以上の間隔をあけて1回150mgへ増量する。その後、さらに2日以上の間隔をあけて、推奨用量である1回300mgに増量する。</p> <p>なお、いずれも1日1回就寝前とし、食後2時間以上あけて経口投与すること。</p> <p><b>&lt;用法・用量に関連する使用上の注意&gt;</b></p> <p>(1) うつ症状が改善した場合には、本剤の投与継続の要否について検討し、本剤を漫然と投与しないよう注意すること。[双極性障害の維持療法における日本人での本剤の有効性及び安全性は確立していない。]</p> <p>(2) 肝機能障害のある患者及び高齢者では、クリアランスが減少し血漿中濃度が上昇することがあるため、2日以上の間隔をあけて患者の状態を観察しながら1日50mgずつ慎重に増量すること。(「慎重投与」及び「薬物動態」の項参照)</p>	<p>通常、成人にはクエチアピンとして1回25mg、1日2又は3回より投与を開始し、患者の状態に応じて徐々に増量する。通常、1日投与量は150～600mgとし、2又は3回に分けて経口投与する。</p> <p>なお、投与量は年齢・症状により適宜増減する。ただし、1日量として750mgを超えないこと。</p>
警告	<p>(1) 著しい血糖値の上昇から、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡等の重大な副作用が発現し、死亡に至る場合があるので、本剤投与中は、血糖値の測定等の観察を十分に行うこと。</p> <p>(2) 投与にあたっては、あらかじめ上記副作用が発現する可能性があることを、患者及びその家族に十分に説明し、口渇、多飲、多尿、頻尿等の異常に注意し、このような症状があらわれた場合には、直ちに投与を中断し、医師の診察を受けるよう、指導すること。(「重要な基本的注意」の項参照)</p>	
禁忌 (次の患者には投与しないこと)	<p>(1) 昏睡状態の患者 [昏睡状態を悪化させるおそれがある。]</p> <p>(2) バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者 [中枢神経抑制作用が増強される。]</p> <p>(3) アドレナリンを投与中の患者 (アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療に使用する場合を除く) (「相互作用」の項参照)</p> <p>(4) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>(5) 糖尿病の患者、糖尿病の既往歴のある患者</p>	

医療関係者用

## 双極性障害とは

気分が高まる「躁状態」と、気分が落ち込む「うつ状態」を繰り返す病気です。以前は「躁うつ病」と呼ばれていました。



\*躁状態とうつ状態が同時に起こる「混合状態」や、症状のない時期もあります。

双極性障害は **躁状態が激しいタイプ (I型)** と **躁状態が軽いタイプ (II型)** に分けられます。

アステラス製薬株式会社 共和薬品工業株式会社